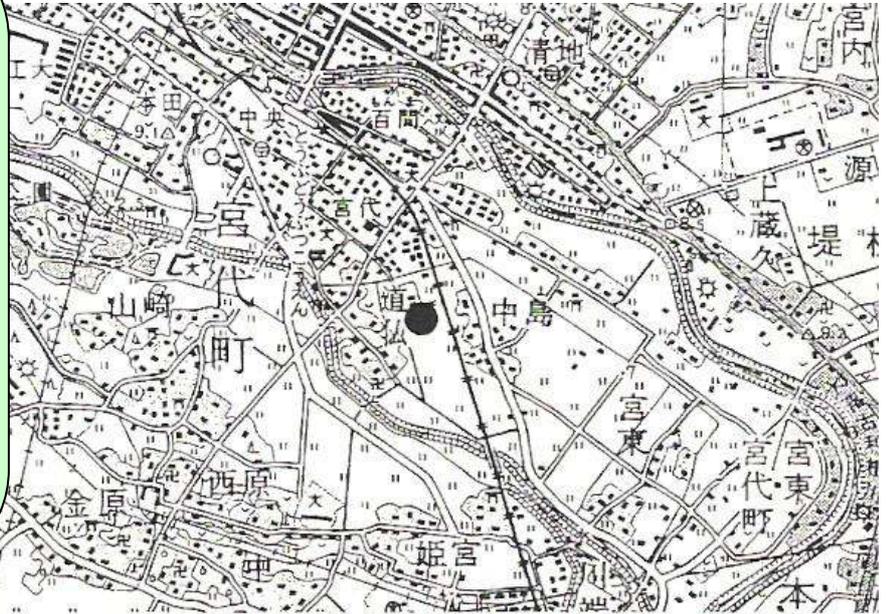


道仏北遺跡

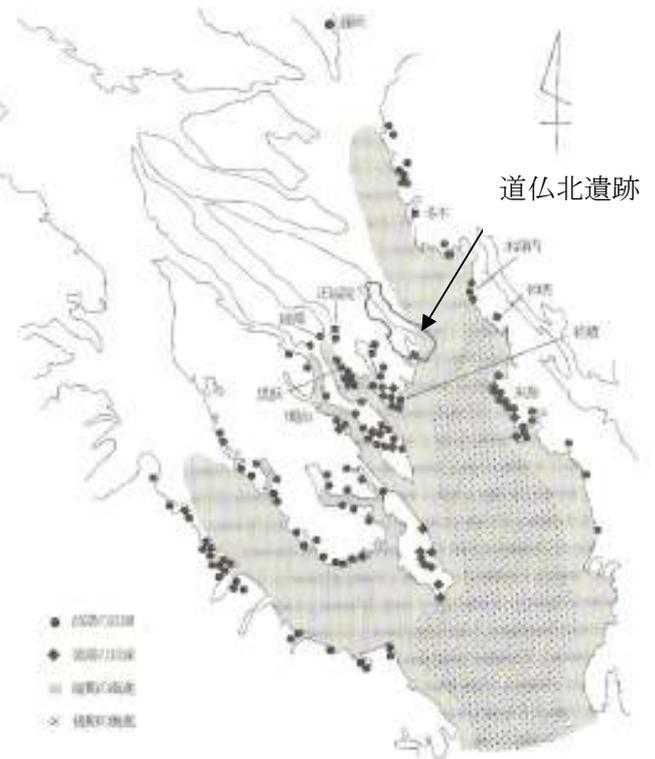
～第2回現地見学会資料～

道仏北遺跡は、道仏土地区画整理事業に伴い、平成17年度、18～19年度、平成20年度の計3回行われています。今回の調査は平成20年9月から調査を行っています。面積約4,000㎡を対象とした調査では、縄文時代早期後半、前期中頃、前期後半の住居跡が約14軒見ついています。当時使われた土器や石器なども多数発見されています。中には、土器や石が多数まとまって見つかった土坑と呼ばれる穴も検出されました。熱を受けた石も含まれるので祭祀の場所であった可能性もあります。



道仏北遺跡位置図 (1/50,000)

縄文時代早期後半(約7,000年前)から気温が上昇し、前期中頃約5,500年前にピークを迎えます。こうした気温の上昇に伴って、海面が上昇し、東京湾は奥に入り込み、道仏北遺跡周辺まで海が広がっていたようです。道仏北遺跡は、半島状に南側へ突き出た台地上にあり東・西・南側は海に囲まれた暮らしやすい場所であったと推定されます。



1-21 海岸線の推定図



道仏北遺跡から出土した獣面把手 (現在郷土資料館で展示されています。)

ムラの風景

縄文時代中期初頭（約 4,800 年前）の土坑、左の写真が土器や石器が出土した状況。土器を取り上げると多量の石が見つかりました（右側の写真）。



縄文時代前期中頃（約 5,500 年前）の住居跡

住居跡 6 軒が発掘されています。いずれも黒浜式期のものです。いずれも四角形をした住居です。柱や火を焚いた炉の跡が確認されています。また、住居の中からは土器や石器が多数出土しています。



左側の写真が、縄文時代前期中頃の第 1 号住居跡（約 5,500 年前）の写真です。右側の写真が土器をアップにした写真です。この住居跡からは、復元可能な土器が多数発掘されました。炉跡は 3 箇所確認されています。床面は土間のように固く構築されていました。

縄文時代前期後半（約 5,000 年前）の住居跡

住居跡 5 軒が発掘されています。諸磯式（西関東系）と浮島式（東関東系）の土器が出土した住居跡です。両地域の土器が一緒に出土しています。いずれもほぼ四角形をした住居です。第 3 号住居跡、第 5 号住居跡、第 6 号住居跡、第 9 号住居跡は比較的小さな住居跡でしたが、第 2 号住居跡は大型の住居跡です。諸磯 b 式、諸磯 c 式、浮島Ⅲ式土器が出土しています。重複していた可能性もあります。



第 5 号住居跡の調査風景。（縄文時代前期後半 約 5,000 年前）



第 6 号住居跡（縄文時代前期後半 約 5,000 年前）

道仏北遺跡見学会資料

平成 21 年 2 月 15 日

宮代町教育委員会